

ODA

発行 社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会
 編集 沖縄県障害者社会参加推進センター
 〒901-0516 沖縄県島尻郡八重瀬町字仲座 1038 番地 1
 TEL(098)851-3455 FAX(098)851-3855
 ホームページアドレス <https://www.okisin.jp>
 Eメールアドレス okisinky@blue.ocn.ne.jp
 頒価一部 100円（会費に含まれています）

沖縄県障害者社会参加推進センターだより 第61号

沖縄県手をつなぐ育成会

第55回沖縄県知的障がい者教育・福祉・就労研究大会

令和4年2月26日（土）沖縄県総合福祉センターゆいぽーるにて、標記大会を開催しました。

当大会は、県育成会の理念『障がいのある人とその家族が、地域で安全に安心して生活できる幸せの実現』を目指して、課題山積の福祉環境について様々な分野の関係者が集い、「教育・福祉・就労」等の広い分野の課題において実践活動の成果を検証しつつ、研究・討議を重ね、当事者と家族に必要な支援を強化することを目的としています。



コロナ禍で、障害のある方の社会参加事業の多くが中止を余儀なくされ、この負の社会環境に大きな影響を受けているのが、生活弱者と思われる障がいのある人達です。就労的な苦悩や入所施設や事業所での環境の変化、さらには閉鎖された家庭や施設内での虐待行為など、様々な問題が提起されております。

当大会では、コロナ禍の中の様々な課題を共有して取り組むための討議を進めるために、沖縄県より、『コロナウイルスに対する取り組み』について行政説明をしていただきました。

基調講演では『コロナ禍における障害のある人の生活環境と、権利擁護』について講演を行い、『本人の夢を語る意見発表』に続き、就学、就労について島尻特別支援学校より瀬長英太教諭、後見人制度については社会福祉士の村吉康江氏を交えたシンポジウムを開催いたしました。

本大会の開催にあたり、ご支援ご協力頂きました関係機関の皆様、また、ご協賛くださいました多くの皆様に、心より感謝を申し上げます。

沖縄県精神保健福祉会

家族会活動の紹介

～『家族による家族学習会』～

沖縄県精神保健福祉会は、県内の障がい者家族会が集まって運営している団体です。その多くは精神療養者家族会で、身内に精神疾患のある当事者を持つ家族同士が、家族会活動を通してつながり、学び合い、対話を広げています。

令和3年度もコロナの影響で活動を停滞、縮小した会が少なくありませんでしたが、その一方で『家族による家族学習会』をいくつかの地域で実施することができました。プログラムとして体系化されている『家族による家族学習会』は、学び合いを深めるツールとして、また家族会活動を知る入り口として有意義に活用することができていると感じます。基本的にはテキストに沿って進みますが、資料から学ぶだけではなく、各々が経験を持ち寄り、話すこと・聞くことを通して、毎回の時間を一期一会の豊かなものとしてくれています。

～ 北中城村精神療養者家族会・準備会 ～

北中城村で新しい精神療養者家族会の発足に向け、毎月の集いを始めています。

「家族自身が楽しく過ごしていくこと」を目的に、障がいを理解するための勉強会や交流会などの活動を行なっていく予定です。現在、正式な地域家族会の発足に向けて、会員の申し込みを受け付けています。また活動を理解し、支援して下さる賛助会員も募集しています。関心のある方は、下記もしくは沖福連までお気軽にお問い合わせください。



《北中城村精神療養者家族会・準備会》

日時：毎月第1金曜日・午後2時～4時

場所：北中城村社会福祉センター

☎ 080-5098-8903（谷川）

沖縄県視覚障害者福祉協会

点訳奉仕員養成講習会

沖縄県障害者社会参加促進事業の一環として、沖視協が主催する「第54期点訳奉仕員養成講習会」が、令和4年1月28日に無事修了いたしました。今回は、昨年度以上に臨機応変な対応が求められる講習会となりました。



まず、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を5名として募集をかけたところ募集当日に全て埋まるという予想外の反響をいただくスタートでした。

しかし、思うように減少しない感染状況に、初めの6回まではメールを使って講習会を開催。そうしているうちに7月の感染状況は増々悪化し、急遽、初めてのオンライン講習会に切り替えとなりました。オンラインを使うこと自体が初めての受講生が半数以上のなか、アプリのダウンロードから設定、接続テスト、基本の使い方を電話でやり取りし、7月30日より完全にオンライン開催に移行し講習を進めました。

1日の新規感染者数が1桁台になった頃合いを見計らって12月に点字図書館見学を実施。初めて皆さんが直接対面することができたのは、講習会がスタートして6カ月が経過してからでした。書庫で初めて点字本に触れてみたり、先輩ボランティアの校正作業を見学して話を直接聞き、今後の活動を想像してみたりと、貴重な時間を過ごすことが出来ました。

その後、またしてもオンライン開催にせざるを得ない感染状況となり、12月の1回を除き最終日まで画面上(オンライン)での講習会となってしまいました。画面越しですが、お互い顔を見て、声を聞いて受講することは通常の講習会と同じです。しかし、画面を離れるとそこは普段の生活をしている日常です。対面で受ける講習とは違い、生の点字に触れる機会が少なく、休憩時間に隣りの受講生との他愛無いおしゃべりなどができない、もどかしさが残る講習会となりました。

とはいえ、講師・受講生共々点訳の勉強に加えパソコン上の慣れない作業でハプニングもありましたが、今年度は無事4名の方が受講を修了しました。講習会を修了された皆さま、おめでとうございます。今後の活動も頑張ってください。

あはき(あん摩マッサージ指圧・鍼・灸)師会

戦後のあゆみ

戦前の私立高橋盲学校で学んだ卒業生と、その支援者が中心となり、戦後の盲教育は1951年にスタートし、あはき師会は『沖縄鍼灸マッサージ師会』として1954年に発足した。

当時の業界の人はどのような生活をしていただのか。1943年に私立高橋盲学校の生徒であった親泊宣一氏は「夕方6時頃から夜中2時まで、杖を頼りにあん摩笛を吹き、お客様を探す毎日だった」と語っている。彼は後に、那覇市松尾にマッサージ店を開業し、盲学校の多くの卒業生を雇用することに尽力した。さらに1958年に国立光明寮を卒業し、東京都の行なった鍼灸試験に合格した神谷康子氏は「ハウスメイドをしている友人たちがアメリカ人を連れてきたり、軍病院の夜勤明けの看護婦が朝早く来たり、国際結婚をして基地の中に住んでいる本土出身の女性たちが連れ立ってきた」と語った。

沖縄県は1956年に、あん摩マッサージ指圧師の試験を実施し、鍼灸師の試験は1965年から開始した。以降、県内のあはき師は増え続け、1989年に沖縄鍼灸マッサージ師会の会員数は144名に達していた。その頃、那覇市保健鍼灸あん摩マッサージ指圧師協会を創設したM氏が【国保によるあはき助成事業】の利用券を発行してもらうよう那覇市に要請していることを知り、会としても全面的に協力する必要があると考え、市議会への訴え、市町村への陳情、国保窓口への説明、街頭演説、署名活動などを一緒に行なった。その結果、那覇市は1989年6月に【国保によるあはき助成事業】の利用券を発行した。

しかし、この活動を県内全域に広げるためには、組織をもっと強化する必要があり、M氏の設立した会と沖縄鍼灸マッサージ師会を1つにして、法人組織にする必要があると考えた。こうして新たに設立された『沖縄県鍼灸あん摩マッサージ指圧師協会』の初代の会長 下地幸夫氏とM氏が中心となって法人組織に必要な書類の作成に着手し、1991年5月15日に社団法人として認可を得た。この成果は「1人は皆のために、皆は1人のために」というラグビーの合言葉で勝ち取ったものではないだろうか。

お話し
沖縄県身体障害者相談員連絡協議会会長 豊平 朝清

沖縄県身体障害者福祉協会

ご寄付をいただきました

有限会社 具志頭給油所 様

●有限会社 具志頭給油所 様よりガス衣類乾燥機（2台）のご寄付をいただきました。



●平良 専宏 様 金30,000円
（八重瀬町在）

いただきましたご浄財は、身体障害者福祉活動の向上に役立て有効に使わせていただきます。皆様、誠にありがとうございました。

日本オストミー協会 沖縄県支部

オストメイト社会適応訓練

～ ひとりで悩まず仲間とともに ～



令和3年12月17日（金）から、県男女共同参画センター「ているる」において、定例会を再開しました。オストメイトの方々だけではなく、ご家族、その他、誰でも自由に参加ができます。

開催地	開催場所	開催日時
北部地区	北部地区 医師会病院	毎月第4金曜日 13:30～
中部地区	敬愛会 中頭病院	毎月第1土曜日 10:30～
南部地区	県男女共同参画 センター「ているる」	毎月第3金曜日 14:00～
宮古・八重山 地区	※調整中	※調整中

【問い合わせ先】日本オストミー協会 沖縄県支部

- ・北部：090-3790-7603（大城）
- ・中部：090-5290-3358（翁長）
- ・南部：090-2510-9695（福元）



沖縄県友声会

音声機能障害者発声訓練及び個人指導・発声相談について

喉頭がん、咽頭がん、舌がん、食道がん、甲状腺がん等による喉頭全摘者で音声機能障がいの方を対象に「発声訓練・個人指導等」を行っています。

毎回、体温チェック、定期的な換気、開催時間の短縮を行い、最後は教室を消毒しています。

開催日時	開催場所
毎月第1～4土曜日 (14:00～16:00)	沖縄統合医療学院（2号館） (浦添市伊祖4-9-8)

【問い合わせ先】

・社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会

TEL：098-851-3455 FAX：098-851-3855

E-mail：okisinky@blue.ocn.ne.jp



・沖縄県友声会 会長：田名 勉

TEL：098-933-3088 FAX：098-933-3103

令和3年度

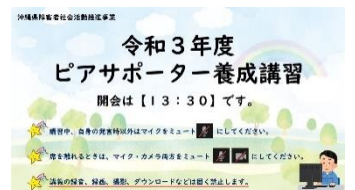
ピアサポーター養成講習

自ら障がいや疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障がいや疾病のある障がい者の相談支援を行う「ピアサポーター」を養成する講習を令和4年3月に実施しました。

本講習は、「ピアサポート体制加算の算定要件に係る研修(経過措置)」として認められたこともあり、障害別団体、障がい福祉サービス事業所、相談支援事業所等から、障がい・難病のある方で性別も年齢も違う様々な皆さまが受講しました。

オンデマンド講義では、ピアサポート・障がいの理解、各障がい分野のピアサポートの実践、沖縄県の相談活動の実施状況、福祉サービスの基礎と実際、相談援助技術の基本等、幅広い内容を県内外の講師の皆さまにご講義いただきました。

オンライン講習では、ロールプレイを通してピアサポートの意義、特徴、相談援助スキルを学びました。修了者からは、様々な障がい種別の方々のロールプレイを通して相互の障がい理解につながることは大きな意義がある。今後、さらなるステップアップと継続したピアサポート人材育成、活動できる機会、事業所に1人でも多くのピアサポーターが配置されることを希望など、ご意見をいただきました。



おきしんきょう通信

— 沖縄県身体障害者福祉協会 —

経営理念

一、利用者本位

一、社会貢献

一、責任と実行

令和3年度 第2回

市町村身体障害者協会長及び事務担当者連絡会

令和4年2月24日（木）、沖縄産業支援センター中ホールを会場に、標記連絡会を午前／南部地区と中部地区、午後／北部地区と中部地区の振り分けで行ないました。参加は対面とオンライン（Zoom）の2種類を用意し、それぞれの希望に応じた出席ができるようにしました。



連絡会は、令和4年度の沖縄県身体障害者福祉協会の年間行事予定のお知らせや、ネーミングも決まり、いよいよ令和4年7月（交付申請は4月受付開始予定）から開始する【ちゅらパーキング利用証制度（パーキングパーミット制度）】の導入について案内を行ないました（下QRコード参照）。

また、コロナ禍での各市町村身協の取り組みについて情報交換を行ないました。コロナの感染状況の推移を見ながら皆さんピクニックを行ったり、諸行事をしたりしたそうです。各事務局はコロナ感染への対策をしっかり行なっていますが、開催後2週間はやはり恐々としていたようです。

沖縄市障協では、災害時における障害者の避難および避難所の運営についてレクチャーするDVDの作成に取り組んでいるそうです。他にも特色のある活動を行なっている地域もありました。



ちゅらパーキング利用証制度について→

わったーしんかゆちゃー

★地域身障協や関係団体のご紹介★

今回は、今年度に九州身体障害者福祉大会にて表彰を受けた新里会長の率いる金武町です！

【金武町身体障害者福祉協会】

（新里広明 会長）

【会員数】13名



【活動紹介】

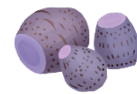
- ・茶話(さわ)会 ※月1回実施
- ・スポーツ交流会 ・ 戸外活動 ・ 料理教室 等



【一言コメント】

私たち金武町身体障害者福祉協会は月1回の茶話会でお互いの近況報告や会員皆で話し合い、色々な活動を企画し皆で楽しく交流しています。

金武町にお住まいの障害者の為に、今後も楽しく過ごしやすい会にするために頑張っていきたいと思えます。



【問合せ】

住所：金武町字金武1842番地

（金武町総合保健福祉センター内）

TEL：098-968-3310 FAX：098-968-6042

MAIL：kin-shakyo-3310@woody.ocn.ne.jp